

# 日本電気労働組合のIT活用

まつばら  
松原 みのる  
稔

NECグループ労働組合連合会・日本電気労働組合・中央執行委員

## 1. はじめに

なぜ組合がIT活用に取り組むのか

昨今の組合員数の減少から支部組織の見直し、執行委員の削減などを行ってきており、組織運営にも大きな影響を及ぼしています。一方、組合活動の範囲は拡大し、特に昨今の厳しい経営環境において、経営、雇用、賃金対策は組合活動としての重要性がますます増してきています。このような状況であっても、これまでの質を落とさずに活動を続けていくには、活動自体の効率化が必要です。そのためには、労働組合もITを上手に活用していく必要があると考え、さまざまなITシステムを導入してきました。メールやホームページ、ファイルサーバといった基本的なものから、独自のITシステムまで幅広く利用しています。そのいくつかをご紹介します。

## 2. 日本電気労働組合のIT活用状況

### (1) 電子メール、ホームページ

メールはNEC社内共通のメールシステムを利用しています。従ってメールアドレスは、@nwu.jp.nec.comとNEC共通の体系に準じており、部門ドメインとして当労組の略称(NWU)を使用しています。

ホームページはNECグループ労働組合連合会(以下、NECグループ連合)加盟組合員限定サイトで、残念ながら社外には公開していません。実際のサーバは、NECビッグロブ社のホスティングサービスを利用しています。社内ネットワークにアクセスできない出向者や退職者の希望者には、独自のID、パスワードを配布し、自宅などからアクセス可能にしています。ホームページは、簡単に更新できるツールが一般に利用されていますが、それでもまだハードルは高いと思う執行委員も少なくありません。ページ自体は作れても、トップページや関連項目別のページのインデックス(タイトルと概要)を更新する作業は意外と面倒なもので、複数のインデックスを更新しな

ければならなかったり、更新が漏れてしまうページがあったりするなど意外と工数がかかります。そこで、2006年のWebサーバの移行時にインデックスページの更新を一括で行うツールを独自に開発し導入して容易に変更できるようにしました。



ちなみに以前は、独自にメール、ホームページとも自前でサーバを立ち上げて運用していましたが、運用工数の削減、セキュリティ対策の強化、コストパフォーマンスの観点から、メールは2004年からホームページは2006年から独自運用を廃止しました。

## (2) スケジュール管理

スケジュール管理は2003年からサイボウズ社の「サイボウズ」を使用しています。スケジュールだけでなく、会議室やプロジェクターなどの備品予約管理にも使用しています。100人以上の執行委員、書記局が場所も事業場、職場にばらばらに在籍していることや、会議が頻繁に設定されることから、今やサイボウズがない状況は考えられません。外出や出張も多いことから、携帯電話からもスケジュール調整ができるオプションもつけて

います。

## (3) ブログ

支部内、支部間の執行委員・書記局同士のコミュニケーション不足を補うため、昨年度から執行部内専用のブログを活用しはじめました。システムはサイボウズ社の「サイボウズブログ」です。投稿する内容には制限を設けず、業務に関係することや、各自の趣味、普段感じることなどを勝手気ままに発信できるようにしています。

## (4) 組合員情報統合管理システム(NEWTON)

NEWTON (NEc Workers union T0tal Network system) は、組合員情報を包括的に管理するWebベースのシステムです。2000年から利用しています。一人ひとりの組合員の所属、勤務場所、職場グループ、職場委員、連絡先などを一元的に管理するWebベースのシステムです。組合員の共済金支払い実績、退職手続き処理、配布する機関紙数管理など、組合業務の基盤となるシステムの一つとして欠かすことができないものとなっています。

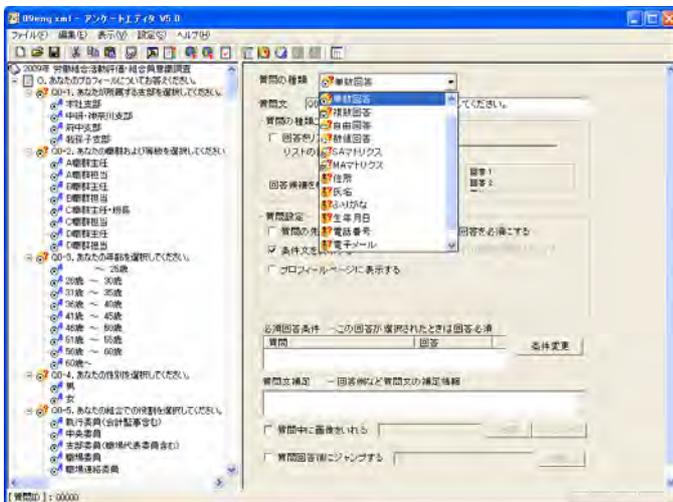
## (5) アンケートシステム

NEC製の「CSVIEW/Webアンケート」というソフトを利用した、Webベースでアンケートを簡単に実施し、集計、簡単なグラフ作成を行うことができるシステムです。

組合活動方針の検証や組合員の意識確認を行うには「アンケート調査」は有効な手段です。しかしながら「アンケート」はアンケートの作成、配布、回収、分析、それぞれのフェーズで多大な手間とコストを必要とします。これらの作業を電子化することで多大な手間とコスト削減を図ることができました。アンケートシステムでは同じ仕組みで各種セミナー、研修会開催時の参加申し込み

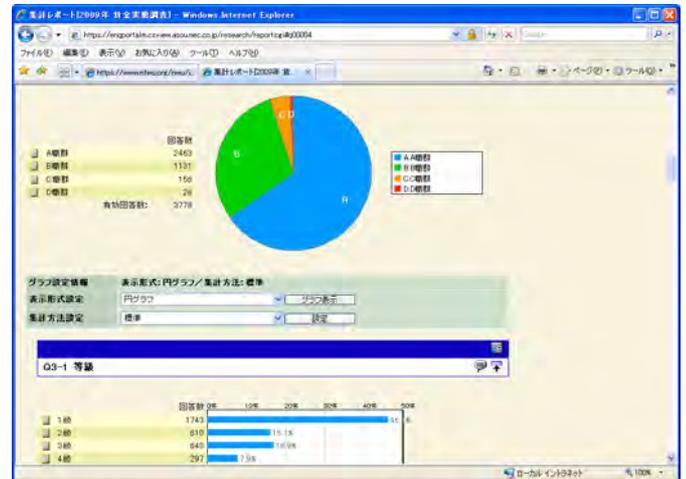
にも利用することができます。利用頻度としては後者のほうが多いですが、いつも何らかのアンケートや募集が動いている状況です。

アンケートの作成については「アンケートエディタ」という専用のツールを使うことで、誰でも容易に本格的なWebアンケート画面を作成することが可能です。執行委員、書記局とも多くのメンバーが自分でWebアンケートを作成することができます。



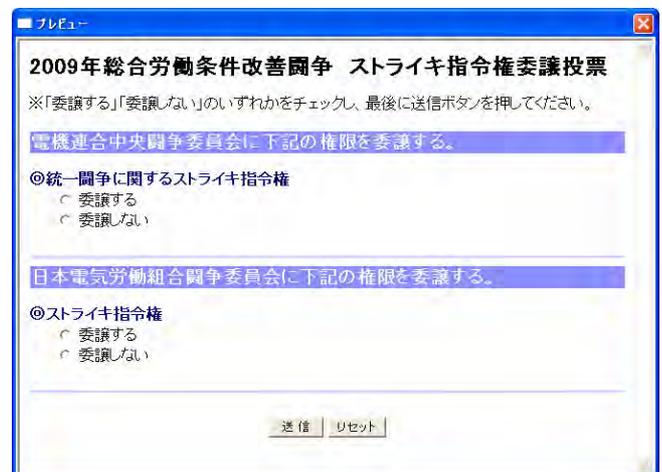
プルダウンからのメニュー選択で、設問・回答方式を選択して設問の設定や回答方法を簡単にイメージ的に作成することができます。アンケートの公開、終了などの管理はWebブラウザを使って設定します。アンケート実施中には、ブラウザから回答状況を随時確認することができますし、同時にグラフ表示なども可能です。アンケートを回収しながら、中間報告も随時見ることができるというのは、回答の傾向を早く知りたいときには非常に便利です。予め回答者リストを登録することで、実施中にアンケートの回答、未回答の状況も確認できますから、アンケートの未回答者への督促も可能です。また回答終了後の集計作業もグラフや、複数項目でのクロス集計などもできるため、アンケート終了後すぐに分析作業に着手することができます。もちろん、CSVファイルとし

てダウンロードしてExcelなどで分析を行うことができます。



## (6) 電子投票システム

タイトルの通り、電子投票を行うためのシステムです。執行委員選挙、中央委員選挙、春季交渉時のストライキ指令権委譲投票などに使用しています。



電子投票は、(5) アンケートシステム (CSV VIEW / Web アンケート) に電子投票オプションを追加してシステムを実現しています。ただ単にチェックをつけて送信するだけならば、簡単なWebシステムでも実現できますが、この仕組みの特長は「誰が何に (誰に) 投票したかという投票内容の秘匿性」を確保しながら投票用紙の準備、配布、回収、開票、集計作業といった非常に

手間のかかる作業を大きく効率化できることにあります。NEC社内の個人認証システムと連携してログイン制御を行うのはもちろんですが、この電子投票にはNECが開発した暗号化技術で投票した人のデータと投票内容が分からなくしています。投票者の開票集計は1万人規模であれば開票・集計作業は10分程度で完了し、すぐに投票結果を発表できるようになりました。

電子投票は導入から7年を経過し3代目となり、組合員にもすっかり定着しています。1代目は2002年から電子投票システムの投票画面作成、開票などの運用の一切を委託するASPサービスとして利用開始しました。2004年から2代目へ移行し、NEC製のActiveCRという製品を採用し、サーバを当労組のサーバ室に設置して自ら運用しました。2009年度からは3代目としてCSVIEW/Webアンケートを導入し、サーバの自主運用方式からASPサービス方式に切り替えました。

#### (7) 会議録作成支援システム(音声認識システム)

議事録や会議速記録の作成支援会議などでマイクに向かって話した言葉を自動的に音声認識して、文章に変換してくれるシステムでNEC製のVoiceGraphy(ボイスグラフィ)を使用しています。

労働組合は会議が多い組織ですから、その議事録作成は非常に骨が折れる作業です。みなさんの組合でも議事録・速記録作成には、多くの手間をかけているのではないのでしょうか。会議録作成支援システムは、議事録・速記録の作成工数を削減するために今年度から導入しました。会議と同時進行で音声をテキスト化し、終了時には議事録のドラフトが完成している状況を実現できますし、会議中はマイクとICレコーダーを使って録音し、後でICレコーダーの音声を文章に変換することもできます。変換率は100%とはいきませんが、適

切な音量で録音できれば、80~90%の高い変換率を得ることができます。

#### (8) NECグループ連合内共通掲示板

NECグループ連合に加盟する組合執行委員の掲示板サービスです。

NECグループ連合は、昨年9月にNEC労働組合連合会とNEC関連労働組合協議会を統合し55,000人規模の組織として発足しました。加盟組合全体で執行委員・書記局人数は500名を超えています。これまでは個別のメールやメルマガによる通知とともに文書を添付して情報共有していましたので、メールサイズも大きくなりがちでした。この情報共有基盤を掲示板に変更することで、大きなメールが流通するのを抑制できた上に、過去の文書や各種会議資料もライブラリとして蓄積していくことができるようになりました。

### 3. 今後の課題とIT導入の基本的な考え方

ここまで導入・活用しているITシステムについてご紹介してきましたが、最後に当労組の今後の課題とIT導入の基本的な考え方について触れておきたいと思います。

#### (1) 継続運用の負荷

IT導入には導入時にも苦勞がありますが、一番の課題はそれを運用し続けることです。一時的にはITに詳しい執行委員がいれば問題ありませんが、いつもそういうスキルがある執行委員がいるとは限りません。なるべく自前でやらずに、利用料を払って運用工数を削減することを目指しています。できるだけ内部に運用ノウハウをとどめず、システム運用を委託する方法で利用していくことが望ましいと考えています。

## (2) 費用対効果

IT投資は大きな費用が必要となります。自前でサーバやソフトを設置して運用管理をしようとすると、さらに大きな費用が必要になります。最近クラウドコンピューティングが進んでおり、自らサーバやシステムを保有しなくても必要なときだけ利用することが可能になっています。利用頻度が低かったり、初期投資費用の余裕はないが定常的な運用費ならば負担できたりする場合には、自前で用意するか、クラウドコンピューティングで利用するかを検討する必要があります。

## (3) ユーザフレンドリーな操作性

必ずしも全員のITスキルが高いというわけではないため、誰もが容易に操作が可能なものであることが重要です。操作性に悪いシステムは、次

第に利用されなくなっていったり、一部の人がしか使えなくなってしまったりします。操作性の良いものを選択していくことが重要です。

## (4) 導入すると決めたらトップダウンでとことん実行

当労組のIT化が進展してきた背景の一つに、トップダウンで進められたことにあります。

組織のトップが、IT導入効果を十分理解し、トップダウンで導入推進することで一気に広まっていったと考えています。導入はしたけれど、その後の展開が遅々として進まなかったりするのは、徹底的に利用しない場合に起こりえると思っています。やると決めたら徹底的に使い定着させるということが必要ではないでしょうか。

## (参 考)

### 製品のURL

CSVIEW/Webアンケート <http://www.nec.co.jp/middle/csview/webenquete/index.html>

VoiceGraphy <http://dnes.jp/ss/voicesolution/>

### 次号の特集は

- 「 労調協理事、新年を語る」
- 「 今、労働組合に期待すること(仮題)」の予定です